目標：　老ザカリヤ夫妻にヨハネが与えられた物語を通し、主イエスのご降誕を私たちが信じられるように神が備えて下さることを知る。
聖句：　「すると、たちどころにザカリヤの口が開けて舌がゆるみ、語りだして神を誉めたたえた。ルカ１:６４」
時間：　１０分
道具：　ホワイトボード、ペン
対象者：小６×１　小５×１　小４×１　小３×１　小３×３　小１×２　未就園児×５
留意点　イエス様とこの出来事の関連は子供たちにはあまり理解されていない。登場人物の位置関係を最初に明確に提示して進めたい。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	２分	今日はアドベント(待降節)の第二週です。 今日は、人々が救い主到来に向けて心を整える 大役を果たしたバプテスマのヨハネの生まれたときのお話をします。 お父さんはザカリヤさんで、お母さんはエリサベツさんと言いました。 信仰深い二人でしたが、年を取り、子供は無理と皆思っていました。		ザカリヤの祭司職について調べると、物語の深みがより分かってくるのだが、子供たちの理解力を超えてしまわないよう十分に配慮する。 課題確認においては随時問いかけ、知識の度合いを推し量るようにする。 ザカリヤは祭司であったことも併せて触れておく。
課題探究	６分	ザカリヤは、くじに当たって神殿で香をたくことになりました。 そこで神様から子供を授かるお告げを受けましたが、ザカリヤは信じませんででした。そのため、 ザカリヤは言葉が話せなくなってしまいました。 エリサベツのおなかがだんだん大きくなってきました。 赤ちゃんはお母さんのおなかに何か月いるかていますか。 赤ちゃんが遂に生まれました。 エリサベツはヨハネにすると言って、みんなの意見に聴こうとしません。 なぜだと思いますか。 天使からそうつけるように言われていたからです。 皆はザカリヤに確認しました。 ザカリヤが「その名はヨハネ」と書いた瞬間、彼の口が緩んで、彼は主なる神を誉め讃えました。 赤ちゃんが生まれるはずがないのに生まれたいうことで、誰か思い出しませんか。 神さまは、イエス様が生まれることで、私たちが驚いてしまったり、信じられなかったりしないよう、配慮をして下さったと言えるのです。	・十か月 ・しらない ・天使にそうつけなさいと言われたから。 ・親の名前では区別がつけにくいから ・分からない ・イエス様	たいへん光栄な務めであることに触れておく。 言葉が話せないことは、祭司職が果たせないという意味であるが、今回はそれに触れる必要はない。 その間ずっとザカリヤが話せなかったことを推察させたい。 父の名をつける慣習があったことに触れると、子供たちの理解がはかどると思う。 「ヨハネ」は「神の恵み深い賜物」という意味であることには触れた方がよいと思う。 手で合図をしたということは、話せないだけでなく耳も聞こえなくなっていたことになるが、今回は触れないでいい。 ザカリヤの賛美には、まさしくヨハネの生涯を言い表す預言が述べられているのだが、内容が多くなるので今回は割愛する。 これは出ると思われる。 今回のお話がイエス様に繋がるかどうかは、この箇所にかかっている。神様の配慮を意識させたい。
まとめ	2分	神さまは真実な方で、私たちが信じられるよう配慮をして下さいます。感謝して主をお迎えしましょう。 暗誦聖句		183号テキスト全体のテーマからの反映として、この事柄を信じさせたい。